

屋外空間における発達障害児の行動特性に配慮した緑地デザイン

緑環境景観マネジメント研究科 嶽山 洋志



キーワード

遊び場、プレーパーク、ランドスケープ、児童発達支援、インクルーシブ

研究概要

発達障害児には「社会的コミュニケーションや対人関係の困難さ」「こだわりの強さや変化に対する不適応」などの特性が確認できます。このような特性のある子どもたちに対応した屋外環境をみると、昨今多くの都市公園で設置がすすむインクルーシブ遊具などが確認できますが、施設整備による取り組みがほとんどで、地形や緑地など自然環境を活かした整備やソフト事業は少ないのが実際です。自身の研究室では、屋外空間における発達障害児のための緑地デザインとその利用特性を明らかにするとともに、健常児とも共存可能なインクルーシブな遊び場としての都市公園のあり方について、実践的に議論を深めています。特に調査対象は、発達障害児の特性に合わせて様々な工夫が展開されている「児童発達支援センター」と「プレーパーク」としており、それらを構成する環境要素や遊び内容、児童指導員やプレーリーダーらの支援について研究、さらに健常児との共存のあり方を捉えるべく、多様な特性のある児童らを集めた遊び場について、ワークショップやプレーパークの手法を用いて、環境のあり方や遊び方について知見を得ています。

アピールポイント

プレーパークの手法を用いて、実践的に発達障害児のための緑地デザインやそこでの活動を展開しています。

応用分野

公園デザイン

